



## News 白神山地 この1年 News

白神山地の春は、林床にびっしりと並んだブナの赤ちゃんとの出会いから始まりました。6月にはノネズミの大発生やイヌワシの営巣が伝えられ、森の生き物たちの鼓動が感じられました。

7月初め、大川上流部で新たに誕生した湖が話題になりました。大規模な崩壊によって大川がせき止められてできたもので、山が活着していることを実感した人も多かったと思います。

10月には白神山地憲章が制定されました。暗門で開かれたフォーラムでは、地元の中学生によって、自然に親しむことの大切さと、このすばらしい自然を未来に引き継ぐことへの決意が力強く読み上げられました。このころ、ブナの赤ちゃんたちは大人のブナと同じように葉を色づかせていました。でも、多くの赤ちゃんはもう姿を消していました。

この秋はブナの実が不作でした。これは、ブナの木が大量の実を实らせるために使ったエネルギーを回復させるのに時間がかかるためと言われていています。一方で、5～6年に1度豊作になるというこの現象はノネズミなどに実を食べ尽くされるのを防ぐのに役立っているようです。

それにしても、広い範囲に渡ってまるで示し合わせたかのように同じ様子を見せるのですから、森って不思議ですね。

## ！ ビジターセンターイベント日記 ！

- 7月29日 センターの行事としては初めてとなる親子向けの観察会を開きました。「白神の森ネイチャービンゴ」というゲームの形をとりながら遺伝資源保存林で自然体験を楽しみました。倒れたばかりのブナの木に出会い、森の世代交代を目の当たりにできたことも忘れられません。
- 8月26日 マタギの工藤光治さん、工藤茂樹さんを講師にお迎えして、鍋倉森をめざしてマタギ道を歩き、周囲17メートルというカツラの巨木に出会いました。後半の大川歩きも好評で、白神山地ならではの体験となりました。
- 9月23日 センター行事の中でも日程行程とも最もハードな天狗岳登山。これ以上はないという好天のもと、ガイドした小池夫妻の熱い語りにより自然保護への思いを強く持った参加者も多かったようです。
- 10月14日 2週連続で自然観察会と高倉森トレッキング。晴天の下で紅葉を楽しんだほか、キノコや草の実、冬支度を始めた植物の様子を見て、森の営みを十分に味わうことができました。
- 11月4日 クラフト教室は、バードカービングの達人一戸元さんをお迎えしてキツツキに挑戦しました。題材は難しかったものの、先生の温かい指導のおかげで、全員しっかりと形を作り上げることができました。
- 11月25日 「十二湖の科学」をテーマにした大高先生によるネイチャースクール。越口の池水系の成り立ちや水の中に生きる様々な生き物とその生態、池によって体長が異なるワカサギの話など、盛りだくさんで楽しいスライド&トークでした。
- 12月23日 子どもたちもたくさん参加してのリース作り。最後に全員の作品を並べたときには、子供たちの作品のすばらしさに驚きの声があがりました。
- 1月27日 自然生態写真家江川正幸さんによるネイチャースクールは「世界のブナの話」。初めて目にする海外のブナの様子、すばらしい写真の連続に感嘆の声があがりました。海外での自然とのふれあい方など、参考になるお話もたくさん聞くことができました。

センターでは、行事のあとでアンケートをとってご意見をいただいています。参加者の皆様のご希望を取り入れて、より充実した行事を作っていきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願ひします。



7月 森のりんねを実感



8月 森の神秘さとカツラの大きさに感動



12月 材料選びもリース作りの楽しみ





# ナチュラリスト からの手紙

## 本州のクマゲラの現状

本州産クマゲラ研究会代表  
岩手県立博物館主任専門学芸調査員

藤井 忠志

### クマゲラとは？

青森県の方々には、クマゲラというキツツキがどのような鳥なのか？は、おわかりいただけていると思います。

あの世界自然遺産に指定された白神山地のシンボリック存在のキツツキでもありますから、この私から説明するのは釈迦に説法かもしれませんね。

日本には11種類のキツツキがいましたが、クマゲラと兄弟分に当たるキタタキは標本として数多く捕獲され、日本から姿を消してしまいましたから、現在では10種類が正確な数です。

クマゲラは、日本最大のキツツキで、体長約45cm。黄色い眼鏡に赤いベレー帽、そして真っ黒なマントをかぶったようなケラです。昭和53年に秋田県森吉山で繁殖していることがわかるまでは、北海道にしかない鳥になっていました。事実、昭和9年に秋田県八幡平の国有林で捕獲された時にも、当時の鳥学会は、北海道からの渡り鳥とみなしたのでした。ですから、本州では「幻の鳥」だったのです。しかしよくよく調べてみると、江戸時代の古い記録の中にクマゲラの模写した絵までが存在し、「クロゲラ」とか「屋マゲラ」、そして東北地方ではクマゲラのことを「ヤマガラス」と呼んでいたことがわかりました。このような方言があるということは、クマゲラは古くから本州の山の中でひっそりと暮らしてきたという裏づけにもなるのではないのでしょうか。



～抱卵交替～ 笹内川 2001.5.1

### 白神山地とクマゲラ

白神山地でクマゲラが発見されたのは、1983年10月8日のことです。この発見は偶然とはいいながら、白神山地が開発か？保護か？で揺れ動いていたときですから、大ニュースだったわけです。発見者は根深誠さんたちでしたが、この発見以来、クマゲラは白神山地の象徴として色々な場面に登場してくるわけです。

しかしクマゲラが有名になると同時に、クマゲラを見たいとか写真を撮りたいというカメラマンが殺到し、クマゲラの繁殖地を土足で踏みこむ行為が多々あったことも事実です。私たち研究者が調べた結果、本州では9つの繁殖地が発見され、そのうち8ヶ所は青森県内に、しかも7繁殖地は白神山地なのです。これはどういうことなのかというと、白神山地のクマゲラを保護することができれば、本州のクマゲラを保護することになるとも極言できるかもしれません。ですから白神山地が世界自然遺産として脚光を浴び、観光客が大勢押しかけるのは、あまり好ましくない現状ともいえます。世界最大級のブナ林の白神山地の自然をみることは結構なのですが、空き缶



～給じに来たメス～ 中村川上流にて 1994.5.14

などのゴミも最近はおちこちで多く目にします。このような人間によるばい捨ては、クマゲラの天敵であるカラスなどの増加にもつながるわけですから、入山者はマナーを絶対に守らなくてはなりません。

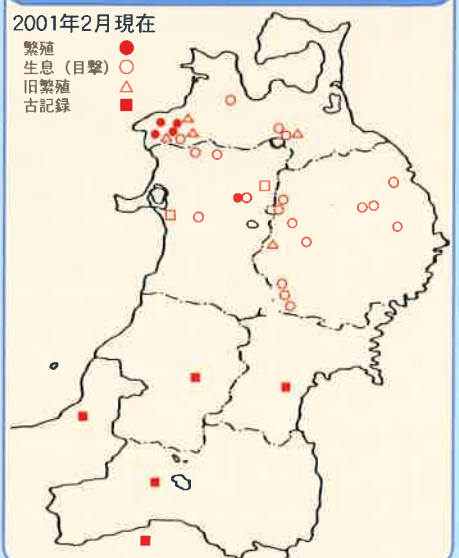
### クマゲラの保護のために

クマゲラの現在の個体数は、約50羽です。この数値は、種の維持の観点からはほとんど危うい状況を示しています。そして最近では茶羽のクマゲラまで目にするようになってきました。これはクマゲラの生息地の孤立分断化が近親交配をもたらし、クマゲラの血が徐々に濃くなってきているともいえるかもしれません。白神山地は残った！でもクマゲラはいなくなりました！では困るわけです。クマゲラの生息地は、他の動植物にとってもすばらしい環境にあるのだという観点から、白神山地は生物多様性の宝庫、そして遺伝子資源として将来的に保存すべきところなのです。これは青森県人のみならず日本人にとってすばらしい宝の山と解釈しなければいけませんし、白神山地の自然を維持していくことが21世紀の青森県人の大きな責務です。今ある状況を解決するために、ブナの植林（その土地のブナ苗木）などの活動が、今後の大きなポイントになることは疑いありません。

### 本州産クマゲラ生息痕跡図

2001年2月現在

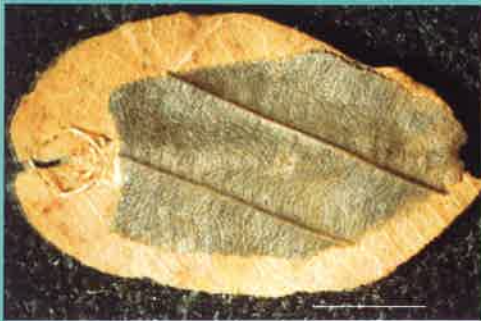
繁殖 ●  
生息(目撃) ○  
旧繁殖 △  
古記録 ■



作成：本州産クマゲラ研究会



写真1 コバントビケラの幼虫



上の写真は小判型の落葉を裏返して見たものです。大小2枚の葉の間に見えるのがコバントビケラの幼虫です。下は巣からとりだした幼虫を背中側から見たものです。十二湖の越口の池で見つけました。棒の長さは5ミリ。

森が冬ごもりに入るころ、地上は新しい落ち葉におおわれます。落ち葉はたくさんの生き物に食べられて再び森の栄養になりますが、池や川には食べ物としてではなく、別の目的で落ち葉を使っている小さな動物がいます。

写真1はコバントビケラという昆虫の幼虫です。池の中でゆっくり動く落ち葉を見つけたので、拾い上げて裏返すと、ポケットのようになった葉の間からこの虫が顔をのぞかせました。2枚に張り合わされた小判型の葉は、この虫が落ち葉で作った巣だったのです。表側からは大きい方の葉にかくれて虫の姿は見えません。そこで裏返して見たのがこの写真で、虫を巣から取り出すと、長くて平たい胴体をしていて両側にたくさんの毛が生えていました。前に伸びた長い足は、実は6本の足のうちの一番後ろの1対で、折り曲げて前へと伸ばしているのです。この長い足は動くためだけでなく、巣を作りかえるときに葉の大きさをはかる定規の役目もしているようです。

トビケラの仲間は落ち葉をいろいろな形に切り取って巣を作るたくみなデザイナーです。コバントビケラのように2枚の葉だけで平たい巣を作る種類のほかに、何枚もの葉を並べた巣を作る種類や細かく切った葉をつなげて筒型や四角柱の巣を作る種類もいて、まるでデザインを競っているようです。巣の材料も落ち葉だけではなく、種類によっては生きているコケや水中の小さな枝や砂、小石なども使います(写真2)。トビケラの巣は種類ごとに独特な形をしているので、巣を見ただけで種類がわかるほどです。

トビケラのように移動できる巣を持っている動物としては、巻き貝の殻を使うヤドカリがいます。でも、ヤドカリは巣に細工をしません。トビケラは巣を作る材料の種類が多いことでも、手が込んだ細工をすることでも、動物の中では群を抜いてたくみな建築家です。

トビケラは巣の材料をつなぎとめるのに口から出す絹糸を使います。絹糸を出す動物といえばカイコがよく知られています。それもそのはず、トビケラはカイコ(ガの仲間)にととても近い種類なのです。親の姿もガにそっくりです。水中に住むトビケラの場合、絹糸は巣作りに使われるだけではありません。たとえば、水の流れが強い場所では、絹糸の端を石に付着させて体が流されないようにしたり、種類によってはこの糸で作った網を蜘蛛の巣のように水中に張って、流れてくるえさを集めたりしています。

トビケラは脱皮をして大きくなります。私たちが成長すると大きな服に着替えるように、トビケラも脱皮のたびに体の大きさに合わせて巣を増築したり新築したりします。そのため、水の底には古い巣や巣材を切り取ったあとのある葉がたくさん残ります。

さて、トビケラにとって巣はどんな役に立っているのでしょうか。まず、ひとつは敵から身を守る働きです。巣の中に体をかくすことで敵に見つかりにくくなりますし、自分の体より大きな巣を持つことで食べられにくくもなります。もうひとつは、酸素の補給です。水の中は空気中に比べて酸素の量がずっと少ないので、動物にとって酸素の補給はとても大事な問題です。特に池や湖は水がよどんでいるので酸素不足になりがちです。筒型の巣を持つトビケラの幼虫は、巣の中で体をくねらせることによって新鮮な水を体の表面に通すことができ、これが酸素の補給に役立っています。トビケラの仲間は、筒型の巣を持つことによって、流れのない湖のような環境にも進出できたと考えられています。

池や川に出かける機会があったら、水の中をそっとのぞいてみましょう。静かな水面からは想像もつかないような、にぎやかな虫の世界が見られるかもしれません。

写真2 いろいろなトビケラたち



いろいろなトビケラたち。左上は植物の破片で筒型の巣を作るホタルトビケラの一つ、右上はコケの葉を細かく切って平らな巣を作るヒメトビケラの一つ、左下は正方形に切った葉を規則正しく並べて筒型の巣を作るカクツトビケラの一つ、右下は砂粒をつづって巻き貝の殻に似た形の巣を作るカタツムリトビケラの一つ。カタツムリトビケラは十二湖の小川で、そのほかは弘前市久渡寺近くの小川で見つけたものです。棒の長さはどれも1ミリ。



展示ホールにはひみつがいっぱい



## 展示ホールで遊ぼう！学ぼう！

展示ホールを見学しているとき、まわりが明るくなったり暗くなったり、突然雨の音が聞こえたりしたのに気づいたことはありませんか。展示ホールには音と光による演出があり、夏のブナの森の1日を約20分で体験できるようになっています。そのストーリーを紹介しましょう。

夜中の風雨がおさまって夜明けを迎えた森は、しだいに明るくなるにつれて野鳥のにぎやかなさえずりに包まれていきます。やがて、セミの声が高まり、キツツキやサルの声が聞こえ出します。午後になると再び雨が降り、溪流の音、カエルの声が響いてきます。そして、森は静かに夕方を迎え、夜の鳥の声が1日の終わりをしめくります。

さあ、展示ホールをめくりながら、森の1日を味わってみてください。

## ビジターセンター情報掲示板

### 交通情報

白神ラインの通行止めは、暗門地区へは4月27日まで、鱒ヶ沢・岩崎方面には5月25日までの予定となっています。また、暗門の滝歩道も例年6月後半までは閉鎖になっています。ただし、雪解けや崖崩れなどの現地の状況によって変更になることも考えられますので、おいでの際は事前に西目屋村役場や当センターへ確認するようにしてください。

### 忘れ物にご注意！

センターでは、ハンカチ、傘、財布から、駐車場に落ちていたシュラフまで、たくさんの忘れ物をお預かりしています。心当たりのある方は遠慮しないで取りに来てください。忘れ物をしないように気を付けるのが一番大事ですが、気づいたときには早めの連絡をお願いします。

### イベント案内

3月17日 トレッキング 雪の八方ヶ岳をめざします。雪山を歩く装備が必要です。  
募集期間 2月24日～3月10日（定員30名になりしだいしめきり）

### 編集後記

10月16日、白神山地ビジターセンターの来館者が、平成10年10月の開館以来30万人を超えました。これを励みに、皆様により親しまれるセンターになるよう職員一同さらにがんばっていききたいと思っています。

今回は「ナチュラリストからの手紙」に、本州のクマゲラ研究の第一人者である藤井先生が長年に渡る研究の一部を最新情報とともに紹介してくださいました。白神山地がクマゲラにとって安住の地となることを願うとともに、入山マナーを徹底するようお願いかけあいましょう。また、「おもしろ自然学セミナー」には、ネイチャースクールでの講演が大好評だった大高先生に再登場していただきました。ふだん目にすることのない水の中も魅力がいっぱいです。そういえば、大高先生からは白神山地でのニホンザリガニの生息をご存知の方は教えてほしいという宿題もありました。知っている方はセンターにご一報ください。

## 白神山地ビジターセンター

—入館無料—

【開館時間】9:00～16:30（大型映像 10:00 11:20 13:00 14:10 15:20 上映時間30分）  
【休館日】毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel: 0172-85-2810 Fax: 0172-85-2833

ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/sirakami/visitor/visitor.htm>

※30名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。（要申込み）  
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。

